

## 1. 第 7 回 (2025 年度) ハンガリー病理解剖トレーニングコース参加者募集

近年、日本を含む世界各国で病理解剖数が減少傾向にあり、特に若手病理医が国内で十分な解剖経験を積むことが困難な状況にあります。一方、ハンガリーでは現在も多数の病理解剖が行われています。そこで日本病理学会では、ハンガリー最大の医科大学である Semmelweis 大学と提携し、日本の病理医がハンガリーで短期集中的に病理解剖の経験を積むことができるトレーニングコースを創設しました。

このコースでは、指導教官の下、参加者自らが病理解剖を行い、臓器観察後臨床病理相関をつけ、報告書にまとめるまでの作業を行います。短期間にこれら業務を繰り返すことによって、所見の取り方、病態の理解、報告書作成能力の修得、向上が期待されます。また国際交流としても貴重な経験を得ることができます。

本コースは 2014 年に試行されたのち、2015 年から 2019 年まで毎年夏に 1 回、計 5 回実施され、のべ 22 名が参加し充実した成果をあげることができました。2020 年以降はコロナ禍のため中止しておりましたが、2024 年度に第 6 回として再開され、5 名が参加しました。第 7 回となる 2025 年度は以下の要領でコース参加者を募集します。奮ってご応募ください。

### 募集要項

#### 1) 実施期間

- ① 事前自習コース：～2025 年 6 月 27 日 (金)
  - ② 実地実習コース：2025 年 8 月 10 日 (日) 午後 6 時～8 月 16 日 (土) 正午
- (①と②の両方を受講いただきます)

#### 2) 場所

Semmelweis 大学第二病理学教室  
(ハンガリー ブダペスト)

#### 3) コース責任者

Kiss Andras (Semmelweis 大学第二病理学教室 教授)

#### 4) コース内容

①事前自習コース：配布資料を熟読し、病理解剖に必要な英語用語、英文解剖報告書作成要領を習得する。自験例 1 例を作成要領に沿って作成し、6 月 27 日までに日本病理学会事務局へ提出する。

注) コース初日から病理解剖が行われるため英文での病理解剖レポート作成を事前学習しておく必要があります。配付資料 (用語集、過去の校閲済み英文報告書例が含まれます) を参考に各自が過去に執刀した任意の病理解剖一症例につき、作成要領に沿って英文での病理解剖レポートを作成し提出して下さい。レポート提出以外の事前学習は各自に委ねます。

②実地実習コース：Semmelweis 大学第二病理学教室のスタッフの指導の下で実際に病理解剖を行い、解剖報告書 (英語) を作成する。月曜午前のオリエンテーション、病理解剖講義と説明 (剖検手順、観察、レポート作成要領等) に引き続き、月曜午後から金曜午後までに合計 10 体の病理解剖を参加者自ら実施する。土曜日に修了証書が授与される。

#### 5) 応募資格

日本病理学会会員で、病理解剖を集中して学びたい医師及び歯科医師。病理専門医あるいは死体解剖資格の有無は問わないが、日本での病理解剖の経験が 10～15 体程度あることが望ましい。

#### 6) 費用

選考の結果参加が確定した者は、コース受講費用として一人 50 万円を 5 月 19 日までに日本病理学会へ支払うこと。

注 1) なおこの金額には、現地への渡航費及び滞在費 (30 万円程度の見込み) は含まれていないことにご注意ください。コース受講費用、渡航費、滞在費は自己負担 (可能であれば所属機関の負担) となります。

注 2) キャンセルする場合はコース開始日から起算し 10 週間前 (2025 年 6 月 1 日) までに病理学会事務局へ連絡すること。

注 3) 2025 年 7 月 29 日を過ぎてコースへの参加をキャンセルする場合は、理由の如何によらず、コース受講費用の全額を払う必要がある。

#### 7) 募集人数

4 名

#### 8) 応募期限

2025 年 1 月 31 日 (金) 必着

(4 人に満たない場合は延長します)

#### 9) 応募方法

申込用紙 (別紙) を以下 URL よりダウンロードし、必要事項を記入の上、日本病理学会事務局までメールすること。  
<https://www.pathology.or.jp/news/2025form.docx>  
日本病理学会事務局：jsp.office@pathology.or.jp

## 10) 選考

日本病理学会海外研修委員会で選考する。なお、応募者多数の場合は、病理専門医試験受験前の方を優先することがある。

選考結果は2025年3月末までに申込者本人へ通知する。

## 11) 参加者の提出書類

選考の結果、コースに参加することが確定した者は、別途連絡する期日までに下記書類をSemmelweis大学第二病理学教室へ提出すること。

- (a) パスポート（顔写真のあるページ）の写し
- (b) 大学及び大学院（博士号を取得している場合）の卒業証明書（英文）
- (c) 医師（歯科医師）免許証（和文）の写し
- (d) 参加者が医師免許を有することを証明する文書（英文）（書式自由）
- (e) 参加者の予防接種歴の有無と抗体価の証明書（英文）（書式自由）

(d) 及び (e) には所属する部署の責任者（教授や部長等）のサインが必要である。なお、(c) の代わりに厚生労働省の発行する英文の医師または歯科医師の免許証を提出する場合は、(d) は不要である。(e) については参加者の所属する医療機関で診療にあたり必要とされている予防接種の項目（麻疹やHBV等）について記載すること。

## 12) 申込後のキャンセルについて

申込後、コースへの参加が困難になった場合は日本病理学会事務局へ速やかに連絡すること。但し選考を経て受講が正式に決定した後に参加を辞退する場合、他の参加予定者にも影響が出る場合があるので、選考終了後の参加辞退はできる限り避けること。2025年7月29日を過ぎてコースへの参加をキャンセルする場合は、理由の如何によらず、コース受講費用の全額を払う必要がある。

## 13) その他

コース修了者にはSemmelweis大学より受講証が交付される。受講証の写しを病理専門医試験受験申請時に提出することで、病理専門医試験受験に必要な病理解剖経験数のうち4体に充てることができる。

なお過去のハンガリー病理解剖トレーニングコース体験記は、病理学会ホームページの「会員専用情報」に掲載されている。

## 14) 問い合わせ先：日本病理学会事務局

TEL: 03-6206-9070 E-mail: [jsp.office@pathology.or.jp](mailto:jsp.office@pathology.or.jp)

参照 HP:

<https://www.pathology.or.jp/news/members/applications/hungary-241204.html>

## 2. 令和6年度認定施設、登録施設（第47回）審査について

認定施設、登録施設としての新規の申請は14件、32件でした。審査の結果、認定施設は12件、登録施設は32件が承認されました。認定及び登録期間は、それぞれ令和6年4月1日から令和8年3月31日までです。

### (1) 認定施設

認定番号	施設名
2003	国立病院機構 仙台医療センター
3019	埼玉県立がんセンター
3125	独立行政法人地域医療機能推進機構 埼玉メディカルセンター
3031	松戸市立総合医療センター
3055	横須賀共済病院
3059	小田原市立病院
4014	三重県厚生農業協同組合連合会 松阪中央総合病院
4071	春日井市民病院
4076	JA 愛知厚生連 海南病院
4099	碧南市民病院
5042	神戸市立西神戸医療センター
5102	兵庫県立はりま姫路総合医療センター

### (2) 登録施設

登録番号	病院名
2062	一般財団法人厚生会仙台厚生病院
3009	独立行政法人国立病院機構 霞ヶ浦医療センター
3074	埼玉協同病院
3129	茅ヶ崎市立病院
3181	東京都立多摩北部医療センター
3188	株式会社日立製作所 ひたちなか総合病院
3189	東京都立大塚病院
3190	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立荏原病院
3191	水戸赤十字病院
3192	焼津市立総合病院
3193	国立病院機構 東京病院
3194	足利赤十字病院
3195	神奈川県立がんセンター
3196	公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院
3197	稲城市立病院
3915	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
4087	社会福祉法人聖霊会 聖霊病院
4160	長野県厚生農業協同組合連合会 北信総合病院
5028	箕面市立病院
5056	高槻赤十字病院
5099	医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院
5146	京都第二赤十字病院
5147	社会医療法人愛仁会高槻病院
5148	医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院
5149	川西市立総合医療センター

- 6050 福山市民病院
- 7036 独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院
- 7091 社会医療法人北九州病院 北九州総合病院
- 7128 沖縄県立中部病院
- 7129 小倉記念病院
- 7130 公益財団法人健和会 健和会大手町病院
- 7131 独立行政法人国立病院機構 都城医療センター

### 3. 会員の訃報

以下の方がご逝去されました。

荻野 哲朗 功労会員（令和6年11月16日ご逝去）